

中山道六十九次錦絵展

【企画展の内容】

江戸時代中期を過ぎると、庶民の間でも旅をする人が増えてきました。また、旅をテーマにした書籍や錦絵が多く出版されました。そのなかに描かれたさまざまな風景は、人々の旅への憧れをかきたてました。

この企画展では、江戸時代後期(天保年間)に描かれた『木曾街道六十九次』(複製)の展示を通して、当時の中山道(木曾街道)の風景や人々の旅の様子を紹介しました。

会場では、日本橋から大津まで69宿(日本橋を入れて70点)の錦絵を展示しました。

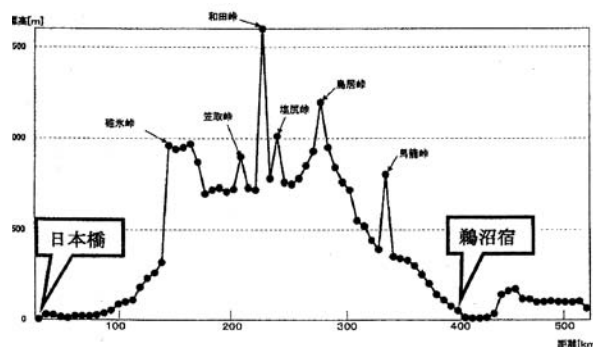
中央図書館3階の展示ホールにおいて、平成19年9月12日(水)～9月24日(月)の期間で開催しました。554名のご見学がありました。



展示会場風景

【展示資料】

- ・『木曾街道六十九次』の版画(複製)
- ・69宿の解説(パネル)
- ・中山道土地の高低差(パネル)
- ・絵師広重と英斎ひろしげ えいさい(パネル)
- ・中山道の地図(パネル)
- ・中山道の歴史(パネル)
- ・江戸時代の旅(パネル)



中山道の土地高低差

【見学者の声】

- ・ 実景を超えた絵師広重の想像力のたくましさに触れて感動しました。写真では表せない親しみ深さ、庶民の生活や心情にふれた風景画だと思いました。

(70才代 女性)

- ・ 地元の鶺鴒と加納の絵を見て時代の移り変わりをしみじみと思いました。

(30才代 女性)

- ・ 当時の世相が想像され大変興味深く見学しました。またこの道を歩いてみたいという思いです。版画の絵であるとは信じられない。

(60才代 男性)



見学の様子